

令和7年7月30日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

札幌市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
開成中等教育学校	札幌市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
https://www23.sapporo-c.ed.jp/sapporo-kaisei/index.cfm/10,4590,c.html/4590/20220204-122005.pdf

※必要に応じて行を追加してください。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
https://www23.sapporo-c.ed.jp/sapporo-kaisei/index.cfm/29,3854,c.html/3854/20250324-083107.pdf	同左

※必要に応じて行を追加してください。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく実施状況教育

(当てはまるものに○をしてください)

☒ 計画通り実施できている ☐ 一部、計画通り実施できていない ☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載するようお願いします。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

(当てはまるものに○をしてください)

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

特になし

4. 実施の効果及び課題

※以下の(1)(2)について、それぞれ取組の成果・効果及び課題を記載してください。

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校が課題探究的な学習を6年間にわたって取り組む手法として国際バカロレアのプログラムを活用することについては札幌市教育委員会が決定していることであるが、学校教育目標を達成する上でもこの取組は必須のものである。

成果・効果としては、生徒が主体的かつ協働的に学ぶ態度が育成され、学習者に必要な学習の方法を充分身に付けることができるようになっていくことが挙げられる。

課題としては、教員が生徒一人一人に対する個に応じた指導や支援、フィードバックの分量が通常よりも圧倒的に多いことから、他の業務にかかる時間を削減するなどの調整が必要である。また、教科の授業だけでなく学際的な単元(IDU)の開発について、MYPを実施しているIB校としては必須の取組であるが、MYP全生徒に対して全校的に本格実施する初年度のため、試行錯誤しながら授業を開講している。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では開校以来、IBを活用した課題探究的な学習の実践に取り組んできたが、これによる大きな効果をあげることができたと考える。このカリキュラムによって学ぶ生徒たちは、希望する進路を実現するために、自己分析とともに社会的課題等を把握し、見通しをもった学習計画を立てて取り組んだことで自立した学習者として十分に成長を遂げている。また、卒業後も進学先の大学等においてレポート作成やプレゼンテーションによる発表については他の学生とは大きく異なり、自信を持って取り組むばかりではなく、説得力があり、わかりやすい伝え方や表現となっていると高評価を多数受けていることから、本校での学習を通してこういったスキルを十分に身に付けることができたと考える。

5. 課題の改善のための取組の方向性

※記載した課題について、特例の取組等に関する改善策の方向性を記載してください。

学校全体の業務バランスの見直しを図ることで、授業準備と生徒へのフィードバック

をするための準備時間を確保できるよう、9月と2月の複数日、午後に教員が評価や採点業務が集中的にできる時間を確保している。

また、学際的な単元（IDU）については、ワークショップ形式による研修を通して教員全員で協働的に取り組んでいる。これにより、IDUの授業づくりのみならず、各教科の授業においてもどのように探究的な学びを展開するか、またどのように評価するかということについて改めて考える機会となっており、相乗的な効果が期待される。